

(excerpt translation)

Japanese Utility Model Application Publication (kokoku) No.:

HEI 4-12808

Publication (kokoku) Date: March 26, 1992

Title of the Invention: DOOR GLASS RUN CHANNEL

Application No.: SHO 60-92206

Application Date: June 20, 1985

Applicant: Mitsubishi Jidosha Kogyo Kabushiki Kaisha and  
Kyoei Kogyo Co.

Creator(s): H. KYO, T. KIKKAWA, and K. MIYAZAKI

Int. Cl.<sup>5</sup> B60J 10/04

From column 3, lines 9 to 22:

A preferred embodiment of the present device will be described hereinbelow with reference made to FIG. 1. Reference character 1 designates a door sash, and reference character 3 designates a door glass pane 3. A run channel 5 is an extrusion integrally formed of a run channel body 5a made of solid rubber and a sponge rubber part 5b. The sponge rubber part 5b is disposed on the run channel body 5a to face the door sash 1 and at the position where the edge of the door glass pane 3 comes in contact with the run channel body 5a. This portion of the run channel body 5a, where the sponge rubber part 5b is disposed, is made thin. Further, the run channel body 5 is covered with a friction-reducing coating 6a, 6b, 6c, such as urethane, to reduce slide resistance induced against the door glass 3.

## ⑩実用新案公報(Y2)

平4-12808

⑨Int.Cl.<sup>5</sup>

B 60 J 10/04

識別記号

庁内整理番号

⑩⑪公告 平成4年(1992)3月26日

8307-3D B 60 J 1/16

A

(全2頁)

⑩考案の名称 ドアガラス・ランチヤンネル

⑩実願 昭60-92206

⑩公開 昭62-413

⑩出願 昭60(1985)6月20日

⑩昭62(1987)1月6日

⑩考案者 京 裕之

愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地 三菱自動車工業株式会社乗用車技術センター内

⑩考案者 吉川 寿一

愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地 三菱自動車工業株式会社乗用車技術センター内

⑩考案者 宮崎 克己

茨城県稻敷郡牛久町栄町6丁目288番地

⑩出願人 三菱自動車工業株式会社

東京都港区芝5丁目33番8号

社

⑩出願人 協栄工業株式会社

千葉県我孫子市中峰1541番地

⑩代理人 弁理士 光石 俊郎

審査官 竹之内 秀明

⑩参考文献 実開 昭57-45593 (JP, U)

1

2

## ⑩実用新案登録請求の範囲

自動車のドアサッシュに取り付けられておりドアサッシュとドアガラスとの間の密閉遮断を行なうソリッドゴムであるランチヤンネル本体のうち、ドアガラスの端面が当接する部分のドアサッシュ側に、ソリッドゴムと一緒にスポンジゴムを成形するとともにこの部分のソリッドゴムの厚さを薄くし、

更に、ランチヤンネル本体の面のうちドアガラスに接触する面に、減摩コーティングを施したことを特徴とするドアガラス・ランチヤンネル。

## 考案の詳細な説明

## &lt;産業上の利用分野&gt;

本考案はドアガラス・ランチヤンネルに関し、密閉遮断性が向上するように企図したものである。

## &lt;従来の技術&gt;

第2図に示すように自動車のドアサッシュ1の内周縁には、ソリッドゴムで形成されたランチヤンネル2が取り付けられており、上下動するドアガラス3がランチヤンネル2に入り込む。ランチ

ヤンネル2には、ドアガラス3との摺動抵抗を低減するための植毛4a, 4b, 4cが接着剤により接着されている。上記ランチヤンネル2は、ドアサッシュ1とドアガラス3との間の密閉遮断を行なう。

## &lt;考案が解決しようとする問題点&gt;

ところで第2図に示す従来技術では、ドアガラス3をランチヤンネル2に押し付けても硬いランチヤンネル2が然程変形しないため、ドアガラス3とランチヤンネル2との間の密閉遮断性及びランチヤンネル2とドアサッシュ1との間の密閉遮断性が、完全であるとは言えなかつた。更に、植毛4aを接着する接着剤によりランチヤンネル2が硬化するためこの傾向が大きくなつていた。

本考案は、上記従来技術に鑑み、密閉遮断性をより完全にすることのできるドアガラス・ランチヤンネルを提供することを目的とする。

## &lt;問題点を解決するための手段&gt;

上記目的を達成する本考案は、自動車のドアサッシュに取り付けられておりドアサッシュとドアガラスとの間の密閉遮断を行なうソリッドゴムで

3

なるランチヤンネル本体のうち、ドアガラスの端面が当接する部分のドアサツシユ側に、ソリッドゴムと一体にスポンジゴムを成形するとともにこの部分のソリッドゴムの厚さを薄くし、更に、ランチヤンネル本体の面のうちドアガラスに接触する面に減摩コーティングを施こしたことを特徴とする。

## &lt;実施例&gt;

以下本考案の実施例を第1図を基に説明する。同図において1はドアサツシユ、3はドアガラスである。本実施例に係るランチヤンネル5はソリッドゴムでなるランチヤンネル本体5aとスポンジゴム5bとで構成されており、ランチヤンネル本体5aとスポンジゴム5bとは押出成形により一体に成形されている。そしてスポンジゴム5bは、ランチヤンネル本体5aのうちドアガラス3の端面が当接する部分のドアサツシユ1側に位置している。更にこの部分のランチヤンネル本体5bは薄くなっている。またランチヤンネル本体5aには、ウレタン等の減摩コーティング6a, 6b, 6cが施こされており、ドアガラス3との摺動抵抗を低減させるようにしている。このコーティング6a, 6b, 6cによりランチヤンネル本体5aが硬化することはない。

かかる本実施例ではドアサツシユ1側にスポンジゴム5bを設置する。

4

ジゴム5bが配設されているので、ドアサツシユ1に密接スポットによる凹凸等があつても、ドアサツシユ1とランチヤンネル5との間の密閉遮断が完全になる。更にドアガラス3をランチヤンネル5に押し込むと、ドアガラス3の当接する部分のソリッドゴムが薄く且つこの裏面にスポンジゴム5bがあるため、ランチヤンネル5は大きく変形して凹む。したがつてランチヤンネル5とドアガラス3との間の密閉遮断が完全になる。なおドアガラス3が直接スポンジゴム5bに当接するのではないため、スポンジゴム5bの疲労耐久性は高い。また本実施例では接着剤を用いていないため、ランチヤンネル5の弾性を保持でき、密閉遮断性の向上を阻害することはない。

## 15 &lt;考案の効果&gt;

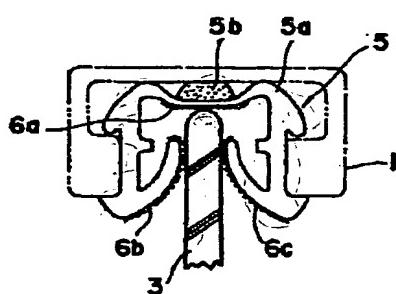
以上実施例とともに具体的に説明したように本考案によれば、密閉遮断性を向上することができる。

## 図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例を示す断面図、第2図は従来技術を示す断面図である。

図面中、1はドアサツシユ、3はドアガラス、5はランチヤンネル、5aはランチヤンネル本体、5bはスポンジゴムである。

第1図



第2図

